

2014(平成26)年度 活動・事業報告

(2014年4月1日～2015年3月31日)

1. 2014年度振り返り

(1)2014年度は、会員の熱心なご支援とご協力で、①会員数が300を超え②ふれあいサービスを基軸とする「困ったときはお互いさま」のたすけあい活動が、はじめて年間1万時間を超えるなど着実な前進をとげた1年となりました。

(2)2014年度の活動と事業は、2011年度総会において定式化した2つのミッション①「困ったときはお互いさま」のたすけあい活動(事業)②支え合い・助け合いのある地域社会づくり活動(運動)を車の両輪に、8つの柱で取り組みました。到達評価は以下のとおりです(5段階評価)。

No.	活動の柱	到達評価
1	仲間を増やし、会員活動を活発にします。	5
2	たすけあい活動を増やし 困っているみなさんの要望に応えます。	4
3	ふれあいの居場所みんなちの魅力アップで利用者増。	4
4	支えあい助け合いの大切さを市民に広く知らせます。	4
5	たすけあい活動の担い手を育てます。	4
6	東日本大震災支援活動を状況に即して継続します。	4
7	NPO・行政などとの協働活動を強め広げます。	4
8	財政基盤を強化し今後の活動の準備をします。	3

(3)以上8つの柱の取り組みを通して、地域支えあいセンター開設に向けた5つの基盤の強化を目指しました。到達状況は以下のとおりです(5段階評価)。

No.	組織基盤	到達評価	特長
1	人材(会員・スタッフ)	5	300人を超える会員
2	サービス力量	4	1万時間を超えるたすけあい活動
3	社会的役割	5	たすけあい活動と東日本大震災支援
4	組織力	4	理事会と事務局の強化
5	財政力	3	収入に占める自主事業収入比率の低下

2. 8つの柱の取り組み

第1の柱 — おさそい運動・会員交流・研修活動

(1)会員おさそい運動を春・夏・秋の3回取り組み、ボランティア説明会を19回開催しました。

(2)新入会員は116人、会員総数は335人になり、会設立以来最大の組織規模になりました。会員の1/3が2014年度に入会した会員です。

No.	種別	入会数	在籍数
1	ふれあい会員(利用会員)	71	190
2	正会員(協力会員)	43	127
3	賛助会員	2	18
4	合計	116	335

- (3) ①誕生会(毎月)②春・秋のバスで行くお出かけ(4月・10月)③ふれあい夏祭り(8月)④ふれあい敬老会(9月)⑤大さんま祭り(11月)⑥クリスマス会(12月)⑦ふれあい新年会(1月)など、会員とふれあいの居場所みんなち利用者の楽しい交流活動にのべ800人を超える参加がありました。
- (4) 会員定例会を毎月開催、会員研修会は①在宅サービス従事者研修会を4回②移動サービス従事者研修会を2回③新入会員研修会を12回開催、のべ331人が参加しました。
- (5) ふれあい寄付金運動を11月12月に実施、これまでの最大138人の協力がありました。

第2の柱 - たすけあい活動

- (1) ふれあいサービス(有償ボランティア活動)は、提供時間数、利用人数、ボランティア協力人数とも、設立以来最高の実績となりました。
- (2) 制度サービス(介護保険・障害者総合支援)は、前年並みの実績にとどまりました。

No.	種別	時間数	前年増減	利用人数 (のべ)	前年増減	活動人数 (のべ)	前年増減
1	ふれあいサービス	5,184	+1,056	850	+192	535	+52
2	制度サービス	4,838	+74	1,200	+93	451	+87
3	合計	10,022	+1,130	2,050	+285	986	+139

- (3) たすけあい活動への問い合わせ、相談数は前年を大きく上回りましたが、主に担い手不足のため、たすけあい活動につなげなかった事例も多く、今後の課題です。
- (4) 介護保険改正、日常生活支援総合事業に向けて、ふれあいサービスと訪問介護サービスの見直しに取り組みました。

第3の柱 - ふれあいの居場所みんなち(コミュニティカフェ活動)

- (1) 利用人数は開設3年で、年間4000人を超え、会員・地域住民が「ふらっと立ち寄れる」居心地の良い居場所として定着してきました。
- (2) 活動を5つ(①ふれあい喫茶②趣味などの講座③会食会④お出かけ⑤イベント・季節の行事)に整理することで、より利用者の要望に応えられるようになりました。
- (3) マネージャー体制から運営委員会体制に切替え、より多くのボランティアに支えられる運営を目指すことになりました。

第4の柱 - 支え合い助け合いを広げる活動

- (1) 小金地区ふれあい広場(10月)、市民活動見本市(3月)、NPO協議会みらいフェスタ(3月)に

出展などふれあいネットまつどの活動を知らせ、広げました。

- (2) 広報まつど3月1日号に広告掲載、ボランティア説明会チラシを春秋2回地域に配布、19回開催したボランティア説明会に69人参加しました。
- (3) 全国紙、地域紙などの紙媒体掲載が25件、NHKTV・ラジオ、コアラTV、ラジオニッポンなどでも取り上げられ、支え合い助け合い活動を広く知らせることができました。

第5の柱 - 担い手養成事業

- (1) 福祉有償運送運転者講習会を3回開催。千葉県内全域を対象に、82人の移動支援ボランティア(運転者)を養成、移動困難者の移動の自由拡大に貢献しました。
- (2) 新しいプログラムで団塊・シニアの地域デビューセミナー(ボランティア説明会)を19回開催、69人参加。協力会員の拡大にとどまらず松戸市内の市民活動などの担い手増に貢献しました。
- (3) 介護初任者研修(旧ヘルパー2級養成研修)の検討を行い、2015年度に開催することになりました。
- (4) 新入会員研修会は、2008年から全新入会員が参加するようになり、たすけあい活動の担い手養成の大きな力になっています。

第6の柱 - 東日本大震災支援活動

- (1) 宮城県東松島市ひびき工業団地仮設住宅被災者支援活動として、ボランティアバスを3回運行、会員・市民のべ124人が参加、東松島の被災者との交流を深めました。
- (2) 東松島と松戸の子どもの交流・保養プログラム2泊3日のサマーキャンプ(市川)クリスマス会(東松島)をまつどNPO協議会、学生ボランティアと協働して取り組みました。
- (3) 福島県を中心とする千葉県東葛地域への広域避難者支援活動について、引き続き松戸・東北交流プロジェクトの事務局の役割を担いました。避難者へ心を寄せる市民のみなさんと一緒に交流サロン黄色いハンカチの週3回開催、避難者交流会、活動報告会、防災講演会などを開催しました。

第7の柱 - NPO・行政との協働事業

- (1) 介護保険改正・日常生活支援総合事業の2015年4月開始に向けて、住民参加の地域生活支援体制の構築をテーマに、松戸市との協議をすすめました。
- (2) ふれあいネットまつどが呼びかけ人として設立したNPO法人まつどNPO協議会は、まつど市民活動サポートセンターの指定管理者になりました。新しいサポセンが、市民活動の活性化と住民主体のまちづくりに貢献することが期待されます。
- (3) 千葉県たすけあい協議会の会長団体をはじめ、NPO・市民団体のネットワーク強化を目的に、市民福祉団体全国協議会(全国)・ちばNPO協議会の役員を担いました。

第8の柱 - 組織運営・組織基盤づくり

- (1) 理事会が組織運営の要となることを目指し、2014年度に理事を3人補充、政策論議と事務局業務のチェック機能を果たせるようにしました。
-

(2)たすけあい活動の質量ともの強化を図るためにコーディネーターを増員するなど、事務局体制を再編、強化に取り組みました。引き続き、事務局スタッフ一人ひとりの力量アップとチーム運営の習熟が課題です。

(3)助成金・補助金は、雇用補助金2件、地方公共団体補助金1件、民間助成金7件と昨年を上回りました。自主事業と助成金などとの収支構造バランスが課題です。